



<一番右側が筆者>

## 国際実習を通して 〈理工学部国際実習プログラム〉

明治大学理工学部機械工学科2年  
志水勝一

理工学部では2015年9月にタイでの国際実習プログラムが実施されました。このプログラムは2016年度より本格実施される予定で、本年度は試行版として私を含め理工学部の学生7名が参加しました。当プログラムで私が特に印象に残ったことを紹介いたします。

### タイという国について

私はタイにはまだ幼いころ訪れたことがあり、そのときの記憶から、またはテレビ等からタイという国はお坊さんが沢山いる、象を大切にしている、近年は大洪水があった、程度の理解やイメージしか持っていませんでした。しかし、実際に訪れてみると私のイメージとは大きく異なっており驚きと発見の連続でした。中でも、明治大学アセアンセンターにお越しいただいた講師の方々による講義が特に印象に残っています。明治大学卒業生でタイの日本企業に勤務している加藤様が、タイの現状の問題点を日本人の視点から分かりやすく解説してくださった講義と、シーナカリンウィロート大学の Saleepon 教授による講義はタイの経済についての問題点を鋭く指摘した内容でした。二人の講師の講義から、タイが現状に至った理由を理解することができました。決して観光旅行では触れることがないであろう、タイに根付いている社会問題について考える機会になりました。

### タイの大学について

到着した翌日（3日）の午後には、シーナカリンウィロート大学の理学部を訪問し、Waraporn Viyanon 教授、Kageeporn Wongpreedee 教授等から理学部と宝石学に関するコースの説明を受け、授業を見学しました。同学部は世界的にも珍しい宝石学に関するコースがあり、理学部の建物内には鉱石に関する博物館を併設していました。学生が授業の一環で原石から宝石を取りだし、宝石店で見るような美しい形に加工する工程等も見ることができました。タイは宝石産業が盛んなため、学生が宝石に関する知識と技術を習得し、実業界へと就職するキャリアパスを形成するだけでなく、地方の産業に大学が貢献しているという説明がありました。この珍しい宝石学科は学生という原石を磨いているのだ、と理解しました。

### タイに進出した企業について

到着した3日後より、タイに進出した日系企業の訪問、工場見学をしました。訪問したのは、

- ・ SANDEN (Thailand) Co., Ltd.
- ・ Thai Meidensha Co., Ltd.
- ・ Fuji Xerox (Thailand) Co., Ltd.
- ・ Crown Seal Public Company Limited
- ・ Mitsubishi Electric Consumer Products (Thailand) Co., Ltd.
- ・ Fuji Xerox Echo-Manufacturing Co., Ltd.
- ・ Schneider (Thailand)

の6社7か所でした。会社によってはオフィスを見学させて頂いたり、工場の生産ラインを見学させて頂いたり、様々なものを見学させてもらいました。全ての会社で見学後に質疑応答の時間を取っていただき、タイで働くことになったいきさつ、仕事の苦勞、喜び、誇り、さらに、タイで生活することについて率直な意見交換の場となりました。どの会社のお話にも共通していたことは、タイに合わせる、ということでした。自国のシステムをそのまま導入するのではなく、現地の環境、文化を組み込んだシステムを作らなければならない、これがタイで運営していく上で必要不可欠だと理解しました。

今回の国際実習はまだ試行版であり、来年以降も同じ行程で行われるとは限りませんが、私は今後参加の意思がある人は是非とも参加することをお勧めします。自分の学科で学んでいることが社会ではどのように活かされているのか、今後グローバル化が進むにつれて自分たちには何が求められるのか等、日常生活ではなかなか考えることのないことに向き合える貴重な機会です。

今後、国際的な場に立つことが少なからずあると思いますが、今回の実習で学んだこと、得たことを活かして臨みたいと思います。